

# 著名人が語る 「私のリビング・ウイルス」

TBSラジオ・ラジオ大阪「MyLIFE! MyCHOICE!!」(日本尊厳死協会提供)から

## 第3弾

2022年秋から毎週、著名人にご登場いただき、  
人生の最終段階や死生観などについて20分ほど、  
ラジオでお話しいただいています。

今号は、その第3弾として、歌手で女優の由紀さおりさんと、  
俳優の大和田獏さんのお話を掲載いたします。  
聞き手は元TBSアナウンサーで現在フリーアナウンサーの安東弘樹さん。

(構成/会報編集・郡司 武)



「インタビュー」歌手・女優

## 由紀さおりさん

### 「目標がある」ことが

### 『生きる力』なんだと思います」

**安東** 由紀さおり名でデビューされて55周年ですか。

**由紀** そうなりますね。

**安東** はじめは童謡歌手としてのスタートでしたが、そのきっかけはどういうことでしたか。

**由紀** 私たち3人きょうだいで、兄姉、私なんです。お姉ちゃんが幼稚園の頃に先生から「いいお声だから将来は音楽のほうに進んだら」となげにいわれたのが両親の胸にインプットされていて、ちょうどそのころ、父の仕事の関係で住んでいた群馬から引っ越した横浜の小学校の講堂で「ひばり児童合唱団」が音楽劇の練習をしていたのです。それを

熱心に見ていた姉に父親が「興味があるならやってみる？」と聞いたら「やりたい」ということで、お姉ちゃんが合唱団に入り、まだ小さかった私もその後、なし崩し的に仲間に入れてもらったんです。

**安東** お姉さんの後を追うように、ですか。

**由紀** そうなの。そこで姉は、後に芸大に行くような勉強をしていたわけですが、そういう姉を見ていて「姉のようなクラシックのほうに進んでも絶対姉には勝てない」と思い、クラシックじゃない道を選んだんです。そこが原点ですかね。

**安東** なるほど。安田祥子さんと由



ゆき・さおり

紀さおりさんの誕生のまさに原点ですね。

### 「挫折のあとに『夜明けのスキヤット』と出会い」

**由紀** 同じ先生に童謡唱歌を習ったので、クラシックの道に進んだ姉と歌謡曲の道に進んだ私とが童謡唱歌を歌うと、ブレスの仕方とかフレーズのふくらませ方とかが相談するところなく合うんですよ。それに私たちも気がついて、お客様からも「大人になったお二人の歌を聴きたい」というアンケート結果が多くあり、母も「二人の歌のレコードを作ってほしい」とレコード会社に頼み、アル

バムを作ったんです。私たちもコンサートの終わりに販売したりしました。

**安東** それがお二人の童謡コンサートの始まりなんですね。

**由紀** そうなんです。二人でコンサート始めて38年になります。

**安東** 童謡歌手から歌謡曲の歌い手になられたのは大変な苦勞がおありでしたか。

**由紀** 童謡歌手から大人の歌い手は、シンクスとしてなれないといわれていたんですが、母は「年齢に沿って少しずつ変化していけばいいんだから」というのが持論でしたね。そういうわけで高校生の時は恵まれ

ず、大きな挫折のような感じでしたが、そのころ、いずみたく先生に出会い、「夜明けのスキヤット」につながるんです。

**安東** この曲に出会ったときの感じはどうでしたか。

**由紀** 夜のラジオ番組のオープニング曲だったんですね。3回ぐらい歌ってOKになりましたかね。それを放送したらリスナーから「誰が歌ってるの？」とかの問い合わせが殺到してね。いずみたく先生が「これ出したら売れるよ」とおっしゃり、山上路夫先生が後半の詞を書いてくださり、昭和44年3月に東芝レコードから出たんですが、いろいろありました。

**安東** どんなことがあったんですか。

**由紀** 出だしに歌詞がないじゃない？。このレコード会社にもっていても、最初はきわもの扱いされたり、「冗談じゃない」みたいな言い方もされました。

**安東** そうでしたか。

**由紀** 「これ、面白いんじゃないか」とおっしゃってくださったのが高嶋さんというディレクターの方で、バイオリンの高嶋ちさ子さんのお父さ

までした。

**安東** (ひざを叩き) うん、誕生秘話ですね。

**由紀** その高嶋さんの一言で目の目を見たんです。ちさ子さんに会った時にその話をしたら、「その話、私は子どもの時から耳タコでした」って。

**安東** ハハハ。そうでしたか。

**由紀** それで名前も、色が白いから「雪」はどうか、となり、母が「雪は溶けてなくなるからこの業界向きじゃないし、イヤです」と言い、でも「ユキ」という語感がいいので生かそうということで「由紀さおり」になったんです。

### 『3度目のカーネギーホールをやるうね、と』

**安東** その後、一線での活躍は皆さん、ご存じですが、大切な人とのお別れについてお聞きます。

**由紀** 父が77歳で旅立ちました。童謡コンサートの時でした。お医者様から「ここ2、3日」といわれていたので、コンサートについてきてい

務所のプロデューサーでもあったわけですよ。

**由紀** 母は82歳で亡くなりましたが、気丈な人でした。最初は乳がん入院したんですが、お風呂に入れる時も、絶対に手伝わせなかったですね。最後の最後まで「母」というより

「女」であったなあ、と想ったりしました。

**安東** そうでしたか。由紀さんがお姉さまと一緒に精力的にコンサートをなさっていることは、お母さんにとって最大の願いだっただけでしょうね。

**由紀** そうだと思いますね。姉は5つ上なので82歳になったんですが、「まだ大丈夫よ、歌えるわよ」といって、一緒にコンサートをさせていただいています。それは母が一番望んだことだったんだろうと思いますね。

**安東** いやあ、ほんとに精力的にこなされていると思いますね。

**由紀** お馬さんのニンジンじゃないですけど、目標を定めて、それを現実させるためにどういう努力をしていけばいいのか、自分の肉体的な条件をきちつと整えてみんなに迷惑をかけないようにしようとか、そういうような年代になりましたけど、「目



『夜明けのスキヤット』当時の由紀さん



撮影・田中聖太郎

### 『高嶋ちさ子さんに会った時にその話をしたら、耳タコでした』って

た母を病院に残し、私たちはコンサート会場に戻りました。最後の瞬間は母がそばにいてくれましたが、私たちは歌っていて、ちょうど「里の秋」という歌の「ああ父さんのあの笑顔」というところで、ぼろぼろって涙が流れたの。

いつもはそんなことないのよ。その時「あ、もしかしたら、もうお父

さんは逝っちゃったのかもしれないなあ」とって思ったの。虫の知らせじゃないけれど、そういうことがありました。

**安東** お父さんにとって、娘さん二人が活躍している姿を見ていて、うれしかったでしょうね。

**由紀** それは母もそうだと思いますね。私たち二人が仕事を続けている

標がある」ということが「生きる力」なんだと思いますね。

私が80歳になった時に今の状態がキープできていて、また、お姉ちゃんも元気でいてくれるのであれば、「一緒に3度目のカーネギーホールをやるうね」と二人で話しているんです。

そういう目標があるということが「生きる力」だと思っんです。

**安東** 歌いながらずーっとファイナルまで続いていくという感じがしますね。

**由紀** そうね、自分の最後は樹木葬か海に散骨、そのどちらかが望みです。精一杯やり切ったと思っって散っていきな、という感じですね。

**安東** そう話される由紀さんの目がキラキラしてますね。うらやましいくらい前を向いていらつしやると感じました。今日はありがとうございます。



上/姉の安田祥子さんと始めた童謡コンサートも38年になる  
左/お母さんにとってお二人の活躍は最大の願いだっという  
右/「安田章子」名で童謡歌手として活躍されていた頃の由紀さおりさん

### 『樹木葬か海に散骨が望み。精一杯やり切ったと思っって散りたいなあ』

# 大和田 獭さん

## 「いい思い出を残して逝きたい」

**安東** 獭さんという芸名ですが、どんな由来があるんですか。

**大和田** デビューが決まった時に、当時の花形脚本家の花登筐さんにつけていただいたんです。「獭」は伝説上の動物で「人の悪夢を食べていい夢を見せてくれる」んだから、人に夢を与えられるような役者になりなさいよ、という願いを込めて。

**安東** はあ、そうでしたか。

**大和田** 最初もらった時は「ええーっ、獭かあ？けもの扁だしなあ」と思いましたね。

**安東** ハハハ、気持ち、よくわかります。

**大和田** でも、よかったと思っます。まず名前を覚えていただけだし、「獭ちゃん、獭ちゃん」と親しみを込めて言っていたので。デビューは大学4年の時でした。

**安東** それからトントンと役者やタレントとして活躍されました。役者の才能があったんでしょうね。

**大和田** いや、ある意味「兄の七光り」なんです。3つ上の兄はそのころ「朝ドラ」に出て売れましたから「大和田伸也の弟」ということで興味を持たれたんだと思います。デビュー当時は、それがかなりコンプレックスでもありました。

**「俺が獭のお兄さんですか、と言われるようになった！」**

**安東** そのことについて、お兄さんは何か言われましたか。

**大和田** 「そんなこと気にするな。自分の力で証明していくしかないから。いつか俺が大和田獭のお兄さんですかと言われるようになれ！」と、そう言われましたね。

思いましたね。彼女はたくさんの方々に恵まれましたが、みんな、私と同じような喪失感を味わったと思います。それを知ってましたから「自分だけが悲しんでいたら、その人た

ちに申し訳ない」みたいな感情もありました。

**安東** いやあ、ご主人の思いとは比べようもないでしょうが、そう思われましたか。

**（妻の死は）あまりに突然だったもので**

**『人生ってこういうことがあるのか』と  
思いましたね』**



上／女優でタレントの娘の美帆さんと孫を挟んで獭さんと岡江久美子さん  
下／兄の大和田伸也さん（左）とは3つちがい。福井の自然の中でのびのび育ったという



**安東** はあ、いやあ、いい話ですね。

獭さんといえば「NHKの連想ゲーム」の印象が強いですが…。

**大和田** あれで全国の人に名前を知ってもらえたと思って、感謝しています。

**安東** その「連想ゲーム」がきっかけで奥さまの岡江久美子さんと大きな出会いがあったわけですよ。えーっ、恐縮ですが、アプローチはどちらからですか？

**大和田** ハハハ。これはみんながね、お前が一方的に押し込んだらううんですけど、逆のような気がしています。

**安東** おお、なんと。岡江さんのほうからですか？

**大和田** 私はトシが6つ上なんで、これから年を取り、やがて彼女に看取られながら逝くだろうとずっと思っただんですが、突然の死で、そんな予定など全部なくなってしまい、真っ白にポッカリ穴が空いたような感じがします。まあ、亡くなった当時のことはあまり覚えてないですね。

**安東** その空白から少しずつ立ち直れたわけですね。

**大和田** 娘（女優でタレントの美帆さん）と孫がいてくれたことが大きいですね。お互いに悲しみ慰めあう、そういうことを通して少しずつ…ですかね。僕の友だちも妻の友だちも思いを寄せてくれたということもありがたくて、大きいですね。

**「最期を迎えるけれど  
最後ではない」**

**安東** 最後になりますが、人生のフイナールについてお伺いします。最期のイメージや理想というふうなものはおありですか。

**大和田** 人はみな最期を迎えるけれど、それが最後ではないと思うんですね。残された人たちにいっぱい「思い出」を置いていくことで、ずっと



おおわだ・ひろき

1950年、福井県生まれ。高校2年の時に名古屋市の高校に転入し、名古屋市立大学卒業。73年に芸能界デビュー。83年、NHK「連想ゲーム」での共演がきっかけで女優の岡江久美子と結婚。1998年から2009年までテレビ朝日の「ワイド！スクランブル」の司会を務める。テレビドラマ「たんぼぼ」「長七郎天下ご免！」「野々村病院物語II」などに出演。2020年に妻の岡江を新型コロナウイルス感染症による肺炎で亡くす。娘に女優でタレントの大和田美帆、兄は俳優の大和田伸也、兄嫁は女優の五木路子。

**大和田** 今となつては何を言っても反論ができないから申し訳ないけど…。まあ、どちらからともなく、ですかね。あの人のそれまでのイメージは日本女性の楚々とした感じでしたが、実際会ってみるとシャキシャキとした人ですね。そのギャップが面白かったですかね。その後、お互いに同じようなワイドショーの司会などもやり、分り合える同胞というか、そんな感じになりました。

**安東** その奥さまと2020年、コロナ禍での突然のお別れになりました。私も筆舌に尽くしがたい驚きでした。

**大和田** うーん。あまりに突然だったものでね。「天を仰ぐように」人生ってこういうことがあるのか」と

その人は続いていくものでもあるんだと思うんです。

**安東** ほお。なるほど。

**大和田** そのためには、いい思い出を残していきたい。僕は妻が亡くなってから特に、たくさんの人から「優しさ」や「いい思い出」をいただいたんです。だから私も「人に優しさを残していきたい」と思うんです。芝居でも日ごろの付き合いの中でも、それはできるかなと思っています。

**安東** 今日は貴重な深いお話をいただきました。ありがとうございます。



**安東弘樹** あんどう・ひろき

1967年、神奈川県生まれ。1991年にTBSに入社後、さまざまなテレビ、ラジオの報道やバラエティー番組を担当。現在はフリーのアナウンサーとして活躍。

※「My LIFE! My CHOICE!!」の放送時間は、TBSラジオで毎週日曜の午前5時より。  
番組公式HPは<https://www.tbsradio.jp/mylife/>  
番組公式HP、日本尊厳死協会のHPから動画視聴ができます。